

介護ロボット導入報告書

平成 29 年 10 月 23 日

報告担当者職・氏名 三笠市ことぶき荘
総務課長 山口栄基

報告担当者連絡先 TEL 01267-2-2146

mail:mikasa@bb.rainbow.ne.jp

法人名	介護サービス事業所名	介護サービスの種別
三笠市社会福祉事業団	三笠市ことぶき荘	介護老人福祉施設
介護ロボットの種別	介護ロボットの製品名	
見守り	見守りケアシステムM1 (FBR-N132 W2/M1)	
介護ロボット導入時期	導入台（セット）数	
平成 29 年 2 月 15 日	1台	
【介護ロボットの使用状況（使用する業務・使用頻度等）】		
<p>起き上がり、立ち上がり等に不安があるなど、転倒や転落リスクがあると予想される利用者（短期入所者も含めその状況により都度選定）に対し常時使用している。</p>		
【介護ロボットの導入効果（導入による業務改善状況等）】		
<p>現在までに同型見守りケアシステムを7台導入している。使用対象利用者の行動や身体状況に合わせた連絡タイミング（起き上がりや端座位など）を設定できるので、使用している利用者の転落等は未然に防げていることが多い。センサーマットのみ設置の場合と違い、無駄に何度も訪室しなくて済む利点もある。前年と比べるとヒヤリハット報告件数自体が減っているが、特に転倒転落に関する平成28年、29年における3月～8月（介護ロボット導入以後半年間）の報告件数比較を、別紙添付書類で報告する。また、この結果は三笠市社会福祉事業団ホームページでも情報公開を予定したい。</p>		
【介護ロボットの不都合な点の課題】		
<p>今回導入の見守り介護ロボットは、転落等危険がある際にナースコールと連動し、報告を受けられるものであるが、ナースコールが重なったり、コール件数自体が多くなることもあり、特に夜間等の対応に限りがあり、導入台数（若しくはその機能利用数）にはおのずと限度があると考えられる。また、端座位で報告設定をしていた利用者について、同姿勢の状態でもコールを発しなかった例が一件報告されていたため、製造メーカーに確認したところ例がないとの返答であった。メーカー指示に従い、初期設定等を再度やり直してから利用を再開したところ、現在まで同利用者での不具合の報告はない。</p>		

添付書類

1. 転倒・転落事故発生状況比較（平成28年・平成29年 3月～8月）

平成28年度

(件数)

事故内容	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計	割合
転倒（居室内）	3	2	3	5	2	4	19	33.3%
転倒（浴室内）							0	0.0%
転倒（脱衣内）							0	0.0%
転倒（ステーション内・外）		4			1	1	6	10.5%
転倒（食堂内）							0	0.0%
転倒（廊下・テイルームほか）	2	1	1	3	3		10	17.5%
転倒（トイレ・洗面所）		2		1	2		5	8.8%
ベッドからの転落		1	1	1	1		4	7.0%
ベッドからのずり落ち	2	1		1	2	1	7	12.3%
イス・車椅子などからの転落	2	2					4	7.0%
車椅子等からのずり落ち				1		1	2	3.5%
28年 合計	9	13	5	12	11	7	57	100.0%
うち転倒	5	9	4	9	8	5	40	
うち転落	4	4	1	3	3	2	17	

平成29年度

事故内容	3月	4月	5月	6月	7月	8月	合計	割合
転倒（居室内）	2	2	4	3	1	1	13	38.2%
転倒（浴室内）							0	0.0%
転倒（脱衣内）							0	0.0%
転倒（ステーション内・外）							0	0.0%
転倒（食堂内）							0	0.0%
転倒（廊下・テイルームほか）	1	1	1			1	4	11.8%
転倒（トイレ・洗面所）					1		1	2.9%
ベッドからの転落		2		4	1	1	8	23.5%
ベッドからのずり落ち		1	3			2	6	17.6%
イス・車椅子などからの転落				1			1	2.9%
車椅子等からのずり落ち			1				1	2.9%
29年 合計	3	6	9	8	3	5	34	100.0%
うち転倒	3	3	5	3	2	2	18	
うち転落	0	3	4	5	1	3	16	

2. 転倒・転落事故発生件数について

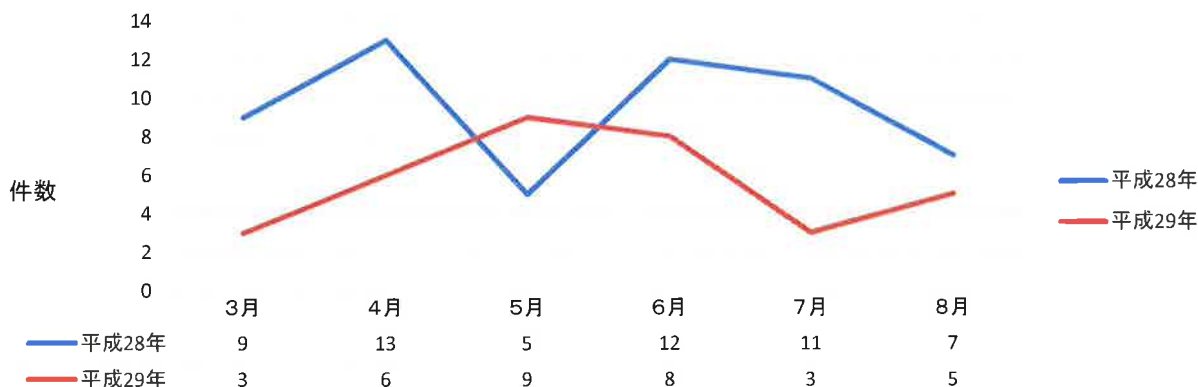
・平成28年度同時期と比較して転倒転落を合計した報告件数が23件減少(40.3%減)

平成28年: 57件

平成29年: 34件

生活する利用者の状況は年々変化するため一概には介護ロボット導入の恩恵だけとは考えられないが事故報告件数の大幅な減少を見れば、事故防止にとって好影響があった印象である。

転倒・転落事故の合計発生件数比較



3.転倒発生件数

・平成28年同時期と比較して総報告件数が22件減少(55%減)

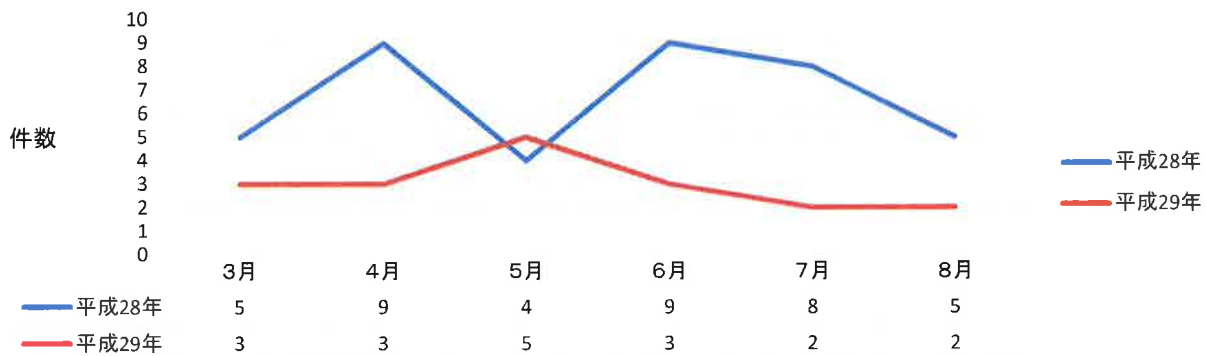
平成28年:40件

平成29年:18件

特養利用者における転倒リスク自体は減少していないと仮定すると、今回導入の介護ロボットを含めた見守りの効果が出ていると実感できる。

自力歩行が可能な体力のある方がベッドから離れる前に、センサーからの通報が受け取れることによる。

転倒発生件数比較



4.転落発生件数

・平成28年同時期と比較して総報告件数が1件減少(5.8%減)

平成28年:17件

平成29年:16件

転倒事例と比べて抑制効果が少なく感じられる。ただし、見守り介護ロボットを利用していない利用者による事故報告が、16件中14件(センサーマットのみ使用者は5人含まれる)であった。

転落発生件数比較

